

## 三崎小学校 3～4 年生の社会科授業において 旧中浜小 (民具収蔵スペース) での民具見学



社会科授業における民具の見学(三崎小 3～4年)

2月21日(火)午後より、三崎小3～4年社会科授業(3年6名・4年4名、計10名)が、旧中浜小民具収蔵スペースで民具見学学習会を行った。3年社会科で学習する「かかわる道具と暮らし」の単元の学習として今回民具見学が実施された。民具の名前や使用法については、生涯学習課・市史編さん室(田村と吉本)が担当した。

初めに、「①むかしの道具にはどんなものがあるのか」「②むかしと今の生活をくらべてどこが違うか考える」の「めあて」2点を確認した。農具→生活用品→漁具の順で名前や使い方を考えさせながら見学を進めていった。

見学後のまとめとして、「むかし」と「今」の道具を実際に見て、それぞれの生活のちがいを発表し、どこがちがうのかを考えさせ、最後に「むかしの人」と「今の人」ではどちらが幸せだったかを大胆に発表してもらった。

昨年度、旧松尾小から旧中浜小へ民具移設後の初めての見学であり、唐箕や米搗臼等の大型農具やその構造を直接見学することが可能で、児童たちにとっても有意義な学習になったと思う。なお、この民具学習には、高知新聞清水支局・山崎彩加支局長が取材にお越しくださり、後日報道される予定である（既に学校長の許可を得ている）。

## 文化財審議会・文化財防火訓練(2月1日)

今月1日「土佐清水市文化財審議会・文化財防火訓練」が爪白地区区長さんなど地域の皆さんのご出席も得て、盛大に開催することができた。はじめに爪白覚夢寺の阿弥陀堂前で文化財保護審議員と地域の皆さんが消化器を使用して防火訓練を行った。

その後、文化財審議会・東近伸会長の爪白地区所在の覚夢寺についての講話があった。覚夢寺にある二つの御堂。東の釈迦堂と西の阿弥陀堂が互いに向かい合う。釈迦仏は「生の世界」を、阿弥陀仏は「死の世界」を意味する。これは「生死」が互いに向かい合っていることを指す。「二河白道」の譬えである。堂と堂の間を結ぶ一本の道(白道・距離約100M)は人生そのものを指している。此岸(現世)と彼岸(来世)の間に横たわる人生は、よく海に喩えられ、「生死の大海」などと言われる。有限の人生を如何に生きていくか。まさにここに人生の根本命題が存在する。

東近伸会長の講話後に、貝ノ川市指定文化財の大樟を見学し、そこにアコウが寄生し、生育環境に影響を与えている実態について協議した。



東近伸・土佐清水市文化財保護審議会会長の講話の様子

### 【編集後記】

今年度末に発刊する『土佐清水市文化財調査報告書第2集・土佐遍路道金剛福寺道真念庵周辺道調査報告書』(土佐清水市教育委員会)の校正作業を今丁寧に進めているところである。生涯学習課で何回も確認し、それぞれの執筆者にも丁寧に校正してもらっているが、やはり訂正箇所がどうしても出てくる。時間を置いて見ると、誤りに気づきやすい。市史編さんも丁寧な校正が要求される。時間をかけてしっかり丁寧に見直すことが不可欠である。そのためにも原稿をはやく完成させ、ゲラ刷りの段階に早く駒を進めていかなければならない。編集委員各位の頑張りに期待したい。春はすぐそこに。(田村)